

外国人労働者問題の盲点

「健忘症」にかかった日本人へ

「ジャパゆき」を論じる前に
振り返らねばならぬこと

裴 富吉 — 大学教授

見逃される 三つの前提

「ジャパゆきさん」「ジャパゆき君」ということばに表現される、最近の外国人労働者問題は、たいへんかまびすしく議論の対象になっている。外国人労働者問題に関する論及は多岐にわたり、いっそうにその焦点が定まらない状況にある。その根本原因は、この国の関係論者たちが、足下の「外国人問題」を的確にとらえきれないところにある。ひとつは、「ジャパゆきさん・君」ということばは、もともと、昔、日

本が自国の女性を外国に輸出したと
きに使われた「からゆきさん」に由
来する。これは周知のことからであ
ろうが、いつのまに、「ジャパゆき」
という最新の問題に、その由来が記
憶のあなたへ押しやられつつある。

者問題を考えてみたい。
日本企業の好成績、これをうけて
の日本経済の活況は（国家財政は多
額の借金をかかえているが）、世界
中の人間を、日本という「黄金の国」
に吸いよせている。

ふたつは、旧大日本帝国の侵略戦
争のおかげで、この国に引きこまれ
その後、定住をよぎなくされた在日
外国人、とくに韓国・朝鮮人（これ
と中国（台湾）人）の問題である。
みつは、過去に日本は、海外へ
の移民（棄民）政策を実行し、二百
万人の日本人が外国に移住していっ
た事実である。

そこで生じてきた昨今の重大問題
が、外国人労働者の就労問題である。
日本と外国、とくにアジアの発展途
上諸国との経済格差は、出稼ぎをめ
ざしてはいろいろとする人びとに対し
て、強い吸引力となっている。
法務省当局は、現在、日本国内で
不法に就労している外国人の潜在人
数を正確につかみきれないでいる。
聞くところによれば、すでにそれは

裴 富吉（べえ ぶぎる）
1947年、東京生まれ。韓国学
園高等部、東京理科大経営工学科、
中央大大学院商学研究科修士、博士
課程卒。
札幌商科大商学部助教授、札幌学
院大商学部教授。1986年、上武
大学教授。

十万人をこえているとの情報もある
（五、二〇万人ともいわれている）。
この数字を裏づける実態は、われわ
れの日常生活のなかにいくらでもみ
られる。

「歴史的経緯」にむ とんちやくな識者

ところで、外国人労働者問題に関
する各種の議論は、その問題をまる
で日本がはじめて経験する出来事で
あるかのように書きたてる識者が多
い。
だが、今日の外国人労働者問題を
中心とする、日本における「外国人
問題」は、いまにはじまったことでは
ない。
さきにかかげた三点の前提は、こ
の国が過去にまちがいなく、立場を
まったく反対にしてあるいは同じに

して、類似する問題をかかえていた、という事実を教えている。

それにもかかわらず、外国人労働者問題・「ジャバゆきさん・君」問題をめぐる識者の議論は、あたかもそれが初体験であるかのようにものをいう場合がほとんどである。

最近の外国人労働者問題は、明治以来、この国がたしかに体験してきたはずの、旧植民地国出身の在日「外国人」労働者問題がのこしてきた、そしていまも当面している「教訓」や「課題」を、すこしも関知していない。

在日朝鮮人の歴史は、日本政府・企業がその時々都合で、彼らの労働力を使い捨ててきたことを物語っている。そして、定住するその子供や孫たちを、今なお執拗に差別にさらしている。新たな外国人労働者に門戸を開放する時に、何よりも、この事実を肝に命じておきたい。

かつて日本がその労働力を利用した日朝鮮人（その子孫）と共に生きられる社会をめざすこと、そのための努力が新たなアジアからの労働者導入の前提になければならない。

異質な文化背景をもつ人々との

共存は、日本に定住する朝鮮人・

韓国人との間で、最も深刻に求められているからである。それこそが、日本社会を開かれたものにする、「国際化」するための前提であるからである（内海愛子「アジア人労働力移入の歴史的経緯」、現代のエスプリ二四九「ジャバゆきさんの現在」至文堂、昭和六十六年四月、一七六ページ）。

こうした「歴史的経緯」にむとんちやくな識者が、外国人労働者導入問題に対して「りっぱな」発言をするのだから、恐れる。

たとえば、外国においては「民族的排外主義者」であるとの烙印を押されている西尾幹二（東京電気通信大学教授・ドイツ文学と哲学を専攻）は、西ドイツにおける外国人労働者に関するくわしい知識をもって、実はなにも知らない自国日本におけるその問題を、堂々と論じている。

われわれが植民地主義の歴史的責任もないのに、東南アジアや南アジアの失業者を大量に受け入れなければ道義が成り立たないなどというのはおかしい（西尾幹二『戦略的「鎖国」論』講談社、一九八八年、一二八ページ）。

この発言は、旧日帝がアジア諸国にくわえた国家的犯罪行為を、根柢もなく免罪する暴論である。西尾は徹底して西ドイツの外国人（労働者）問題を論じるが、日本のそれについては無知にひとしい「知識水準」にある。

このていどの知識人が、だいたいな時論にまつわる論客として尊重される風景はみぐるしい。

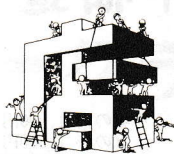
歴史に対する無知は、現在に対する、そして未来に対する無知も意味する。

この国の祖先たち、そして自分たちが、これまでアジア諸国と、どのように接し、つきあってきたかを回顧できないで、いまの問題を論じられるわけがない。

「歴史」に対する健忘症がこの国全般の宿痾だとすれば、これを治療すべき任務にあたるのがまさに知識人であろう。この逆をいくような知識人に発言をする資格はない。それでは単なる「知的」煽動者になってしまう。ともかく西尾幹二の自国「日本」に関する知識の貧困には驚かされる。

（最新の論調については、『中央公論』一九八九年五月号を参照されたい）。

繁昌店創りはお任せ下さい!!



株式会社 日洗 商業建築 / 企画・設計・施工

本所・群馬県前橋市元総社町395-60 ☎0272-53-3450 (代)
小山営業所・栃木県小山市駅前通り2-38-7 ☎0285-25-4560 (代)

豊かな新世紀を拓く

印刷関連機械、資材・情報システム機器
デザイン用品&ラミネート加工・
CTS 電算植字出力サービス

◆ 設染印刷機材株式会社

■本社 〒379-21 前橋市天川大島町2丁目6-6 ☎0272(24)1546 (代)
■宇都宮営業所 〒320 宇都宮市花園町17-1 ☎0286(33)8324 (代)

在日外国人の 正当な評価を

——「他人」の痛みがわからないこの国の人たちについて一言。前述したように、今日の日本における外国人労働者問題は、時と場所とをかねて日本（人）自身の問題であったことを強調しておきたい。

かつて「からゆきさん」たちは、いかなる運命をたどったのか。戦前・戦後、海外に移住した日本人は、その後どのように暮らしてきたのか。在日し、定住する外国人、とりわけ韓国・朝鮮人は、いままでどのような境遇におかれてきたのか。

こういった諸点を配慮しないで、またわが国としないので、現今の日本における外国人労働者問題を論じることとはご法度だといいたくもなる。森 廣正『現代資本主義と外国人労働者』（大月書店、一九八六年、二〇三—二〇四ページ）は、こう述べる。

外国人居住者の圧倒的部分を占める在日韓国・朝鮮人を除外してわが国における外国人労働者問題の現状を考察することは不可能であろう。というのは、この問題こ

そ、わが国における外国人労働者問題の現状、その特殊日本的形態を示すと同時に、わが国の国際化の「恐るべき後進性」を実証するものにほかならないと思われるからである。

在日し、定住する韓国・朝鮮人は、日本経済・社会の発展に大きな貢献をしてきている。この事実がしられていないだけである。

例をあげれば、プロ野球界から韓国・朝鮮人を抜いたメンバーにしてみたら、これはもう「なんとか」のはいってこないコビーどころの話ではなくなる。日本プロ野球はガタガタになる。話はプロ野球界にかぎらない。在日「コリアン・パワー」の正当な評価が要請される。

日本社会に対する韓国・朝鮮人の多方面にわたる寄与が正当に評価されないのは、明治以来この国社会に根強くつちかわれてきた「差別」「偏見」＝韓国・朝鮮人劣等視にある。

筆者は、先日、引越しをしたばかりである。先住所は群馬県多野郡新町であり、この町には韓国・朝鮮人が日本人人口百人あたり1人強、いた。現住所は埼玉県熊谷市となったが、この市にきてびつくりしたことがある。

熊谷市役所の市民課には外国人が用事でいったさい、外国人が手続をすべく訪ねる窓口が案内されていない。熊谷市の外国人への接しかたは、市役所で判断するかぎり旧態依然である。外国人業務関係用の申請書類もカウンタールにおかれていない。

外国人は特別あつかいである。筆者が外国人登録の関係で手続を熊谷市役所市民課を訪ねたら、カウンターのなかにはいってこれと指示されたので、日本市民と同じようにカウンタール窓口で用件を済ませてくれるように頼み、そのようにしてもらった。「必要」以上に外国人を「外人」あつかいしてほしくない。

引越し後、約二週間がたったころ、こちらの学校に小学四年生で転校した息子の上級生らしい学童たち五人がわが家のまえにきて、「韓国人！」「韓国人！」と大声で叫ぶ。そのまた一週間後にも同じことがくりかえされた。これにはなんの意味があるのだろうか？

外国人差別は日本人自身に対する差別と同根である。群馬県桐生市の「部落」問題をみよ。いまだなにも解決していない。

外国人労働者問題は、日本国内における差別問題をより鮮明にするきっかけをつくったといえる。

銘茶 中仙道



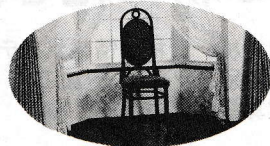
赤坂の宿 1,000円
碓氷の峠 1,500円
白衣の翠 2,000円



小松用

高橋本庄 ☎0273-22-4020
☎0272-51-3200
☎0495-24-0549

住まいの模様替え。 カーテン・ジュタン・壁紙etc



リアルインテリアを考える



(株) インテリアコトウ

〈本社〉前橋市西片貝町3丁目31 ☎0272-24-6372